



本日はよくお参り下さいました

鈴虫の声が涼しげに響く今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。先月は、無事例大祭を催行することができました。今年も雨の心配もなく、神楽も神輿の巡行もつつがなく収めることができました。氏子会の皆さんと、内川町内会のご協力に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。さて、9月といえばお彼岸です。春のお彼岸、夏のお盆、秋のお彼岸、日本人は先祖や自然をととても大切にしています。それは日本人の心の奥底に、目に見えないものを信じるという、やさしさがあるからではないでしょうか。また、ものに人格を見出して大切にすることがあります。例えば幼稚園で子どもたちが出したおもちゃを片付けるときに、先生が、「おもちゃさんをおうちに戻してあげましょね」という言葉がけをすると、ただ「片付けましょう」よりも伝わりやすいようです。この場合は、子供のやわらかい心だからこそ伝わるのかもしれませんが、大人が聞いても穏やかな気持ちになります。日本人は「和」を大切にしてきました。昭和天皇の御製に「天地(あめつち)の神にぞ祈る朝風の(あさなぎの)海のごとくに波たたぬ世を」という歌があります。この歌のように波風のたたない平和な世の中は、誰もが望むことです。目に見えないものを尊重し、敬い、大切にすること。こういったことは、幼い頃から自然に培われていくことです。その一環としても、お彼岸やお盆といった年中行事は、大切にしていきたいものですね。今月も皆さまのご多幸とご健勝を、心よりお祈り申し上げます。権禰宜道子



9月

- 1日・15日 つきなみ祭 月に二回の恒例祭祀。
- 20日 彼岸入り 彼岸は「日願」ともいい春の種まきや秋の収穫とも結びつき、自然に対する感謝や祈りがご先祖様に感謝する気持ちにもつながる大切な日です。期間は秋分の日の前日三日間です。この期間にはご先祖様にお供え物をしてお墓参りをしましょう。
- 21日 敬老の日 多年にわたり社会につくしてきた高齢者を敬愛し長寿を祝う。
- 23日 秋分の日・彼岸の中日 祖先を敬い、亡くなった人々をしのぶ。
- 26日 彼岸明け 彼岸最終日。
- 27日 十五夜 旧暦八月十五日の夜。ススキ、ハギ、オミナエシなどの秋草を瓶に挿して縁先などに出す。果物、団子を供えて月見をする行事。もとは中国の風習で、仲秋の名月という。
- 正五九祭 インドから伝わった仏教行事とも言われていますが、日本では年明けの正月には一年の平安を祈り、田植えの五月には豊作を祈り、収穫時期の九月には自然の恵みに感謝を捧げてきたことと重なり、広まったと考えられます。



神社の通称と神さま(後編)

神社の通称からどんな神さまがまつられているか、わかりやすく紹介するシリーズの三回目。今回で完結です。

【西のえびすさま・東のお酉(とら)さま】

一般に「えびすさま」と呼ばれるお宮は大阪を中心とする関西地方に数多く見られますが、中でも島根の美保神社、大阪の「十日えびす」で有名な今宮戎(えびす)神社、兵庫の「福男選び」で有名な西宮神社など、それぞれ豊魚・商工業繁栄の守護神として厚く信仰されています▼これに対し、主に東京において賑わいを見せる商売繁盛の神さまがお酉(とら)さまです。お酉さまの本社は、大阪の大鳥神社・埼玉の鷲宮(わしのみや)神社の二つとされますが、現在東京の鷲(おとり)神社・大鷲(おとり)神社・花園神社・大國魂神社などの酉の市が有名です▼御祭神は天兒屋根命(あめのこやねのみこと)や、日本武尊命(やまとたけるのみこと)、天日鷲命(あめのひわしのみこと)などの神さまをおまつりしています。お酉さまのトリは



「取り」に通ずるといって、金銀財宝を飾った熊手が賑やかに買い求められていきます。(久里浜天神社のお酉さまは十一月五日)

【出雲の神さま】出雲の神さまとは、大國

主の神さまをいいます。一般的に大黒様として知られているこの神さまは、国土を開拓され、国を造られた偉大な神さまです。

▼また兔を助けたやさしい神さまであり、御子神さまをたくさんお持ちの縁結びの神さまでもあります▼「神徳が広く大きいので、くく(こ)の(こ)神名をもつ(お)おられ、大日貴命(おおなむちのかみ)・八千矛神(やちほのかみ)、大物主神(おおもものぬしのかみ)とも呼ばれています▼「本社は島根県の出雲大社であり、その分社は全国に八百六十社余あるといわれます。」



【厚比壽(あつひす)さまはあいつ?】

えびす様の起源は、大國主神の子である、事柄・言葉をつかさどる事代主の大神(ことしろぬし)のおおみこと(おみこと)と言われ、蛭子神(ひるこ)の(おみこと)という説があります▼「えびす」は戎・夷(あいつ)という漢字で表記されるように異邦という意味があります。蛭子(ひるこ)の(おみこと)は、伊邪那岐命、伊邪那美命の、不完全な形で生まれてしまった子で、葦の船で海に流されますが、その蛭子がやがて戻ってきた時に、蛭子(ひるこ)「えびす」、海からやってきた福の神、漁業の神、商売繁盛の神として信仰されるようになります▼事代主の大神と蛭子神が同一視されるようになったのは、神話の国造りの場面(事代主の神が釣りをしていた)ことから、海の神である蛭子神と結びついたと言われています▼ちなみに大黒様は、インド仏教の大黒天と大國主の神の(大國)が「大黒」と読めることから同一視され

た呼び名です。参考文献

『お宮へ私たち』全国神社

社保育団体連合会発行

